



森 2001年

# 石井克展

2024.11.20 (水) - 12.1 (日)

## ■アクセス■

- ・東武伊勢崎線足利市駅徒歩 12分・JR 両毛線足利駅徒歩 8分
- ・北関東自動車道足利ICより 15分  
(駐車場 3台・近隣にも無料駐車場あり)
- 11:00~18:00 (最終日は 16:00 まで)  
月・火曜休廊 (月・火が祭日の場合は営業し、翌日休)
- 軽食とソフトドリンクもお楽しみいただけます。



artspace & café

〒326-0814 栃木県足利市通2丁目 2658

Tel : 0284-82-9172

E-Mail : info@artspace-and-cafe.com

URL : <http://artspace-and-cafe-ashikaga.com/>



タデマエとホンネ 1979年



タデマエとホンネ 1979年



森 1987年

## 石井克 虐げられた魂を救済する絵画

石井克の作品は、私たちが生きる世界の裏側に存在する「闇」を観る者に想起させる。本展の出品作品も含めて、モノクロームを強く印象付ける表現には、どのような想いが込められているのか。

主要なモチーフの一つとして、直立する人のようにも見える鳥の姿が描かれた作品群がある。これらは、鶏を大量に飼育するために用いられる「バタリ—飼育」がイメージのおおもとにあったと、石井から聞いたことがある。また、私の記憶に深く残るものとして、ホロコースト（大量虐殺）をモチーフにした作品群がある。

「生」が閉じ込められ、虐げられた人々の「魂」を救済すること。これが、石井克が自身の創作に求め、観る者をひき付けてきた核心なのではないかと、私は考えている。日々報道される国内外の事案をみるまでもなく、私たちの世界は、無数の虐待と絶望で満ちあふれている。それは、戦争、紛争のような直接的に争うものだけではなく、産業、経済が発展して肥大化する中で生まれてきたものも含んで、大きな「闇」が人の心を侵食し続けている。これらに対して芸術は何を為すことができるのか。

現代の美術は、絵画、彫刻をはじめとする様々な分野で、この問いかけに、数多くの作家が力を尽くし対峙してきたといえる。その中で石井の作品は、絶望を顕わにすることにとどまらず、「闇」から再生に向かおうとする「希望」の意思を感じさせることにおいて、独特の魅力を発しているのだ。

篠原誠司(足利市立美術館学芸員)

## 石井克 Katsu Ishii



1941年茨城県水戸市に生まれる。1961年群馬県美術展入選。78年同协会会员となる。1963年二紀展入選(〜70年)。二紀選抜百人展出品。1965年群馬大学学芸学部美術科卒業。1966年日本版画集団展出品(〜72年)。1970年日本アンデパンダン展出品(〜1993、2013〜19年)。1972年自由美術展入選。佳作作家。78年会員となる。1984年東京展出品(〜94年)奨励賞、東京展賞受賞。1985年群馬版画協会展出品(〜2019年)。1994年宮地佑治と二人展開催(〜2015年)。1998年日本アンデパンダン展企画「今日の間像」出品。2013年九条美術展出品(〜19年)。2014年自由美術展「観光賞」受賞。2015年R293美術展出品(〜19年)。2016年「石井壬子夫・石井克一父と子の自画像展(広瀬川美術館)」開催。2019年「久叡館コレクション展」「石井克個展(石井画廊)」。2020年「石井克の鳥展(artspace & café)」桐生市有鄰館ビエンナーレ」出品。

- 現在 自由美術協会会員、日本美術会会員、群馬県美術会会員。
- 著作 「生きること描くこと」(国土社・1987年)  
「壇輪になった僕」(煥乎堂・2001年)  
「表現と自立」(一莖書房・2006年)

## ■イベント■

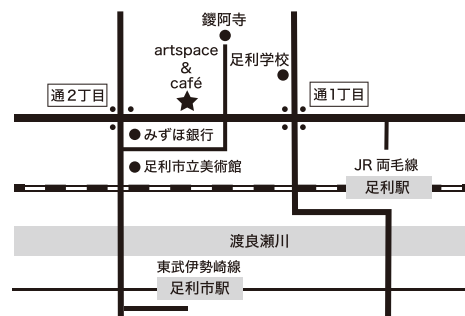
生島佳明 Y.OZIMA ソロギターインストライブ

11/23(土)18:30 開場 19:00 開演

2,500円(ワンドリンク付) 定員:30名 要予約

長年ジャズを演奏してきた生島が、インド古典音楽の要素を取り入れつつ

47都道府県を巡るツアーの一環です。



artspace & café

〒326-0814 栃木県足利市通2丁目2658

Tel : 0284-82-9172

E-Mail : info@artspace-and-cafe.com

URL : http://artspace-and-cafe-ashikaga.com/